

三重大学 総合情報処理センター 広報

Annual Report
Center for Information Technologies and Networks
Mie University

<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/press/ar2010.pdf>

Vol. 8 平成 22 年 7 月

目次

巻頭言

総合情報処理センター長	木村文隆	3
-------------	------	---

活動報告

キャンパスネットワーク更新 — 第5世代キャンパスネットワークについて —		
総合情報処理センター	杉浦徳宏	5
情報セキュリティ基盤に関する取り組み		
総合情報処理センター	堀川慎一	9
UPKI イニシアティブに関する取り組み		
総合情報処理センター	三橋一郎	11
平成21年度の活動一覧		13

新スタッフ紹介

ご挨拶		
総合情報処理センター	伊藤舞	22

センター利用状況		23
----------	--	----

センター組織・規則

総合情報処理センター運営委員会委員		40
情報ネットワーク専門委員会委員		41
三重大学学術情報ポータルセンター規程		42
三重大学学術情報ポータルセンター運営委員会規定		44
三重大学総合情報処理センター規程		46
三重大学総合情報処理センター運営委員会規程		48
三重大学情報ネットワーク専門委員会規程		50
三重大学総合情報処理センター利用規程		52
三重大学総合情報処理センター利用細則		54
三重大学総合情報処理センター情報処理教育システム利用細則		56

巻頭言

総合情報処理センター長 木村文隆

総合情報処理センターでは、平成 21 年度に以下のような活動を行いました。

★教育端末室の全パソコンを更新し、252 台から 356 台に増加させた。同時に第 4 教室設置分を 100 台から 140 台と拡充し、70 台 2 教室として分割利用もできるよう改修を行い授業数の増大に対応した。また、自習利用の要望にこたえるため、図書館と協力して図書館内に合計 60 台の設置を行った。

★マイクロソフト社の Office 包括契約を締結した。

★政府補正予算による第 5 世代キャンパスネットワーク更新（コア、エッジ）を行った。

★IDP 専用機を導入しキャンパスネットワークの監視・防御体制を強化した。

★モバイル LAN アクセスポイントのファームウェア更新と、同時にセキュリティ設定を WEP から WPA2-AES に切り替えた。

★学生用メールシステムを Google 社の Gmail (Google Apps Education Edition) を利用する形に更新した。また、このために必要な統一アカウントとの連携システムの構築を行った。

★総合情報処理センター教育端末室の OS を Vista から 7 にアップグレードした。

★学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点公募型共同研究（試行）に対し、東海地区の国立大学法人で応募した「アカデミッククラウド環境におけるソーシャルコンピューティングアーキテクチャの構築」が採択され、活動を開始した。

★国立情報学研究所 UPKI プロジェクトによる学術認証フェデレーションへの接続テストを行い、技術面の検証を行った。

★学内認証局設立のための電子証明書発行機（プライベート CA 機）を導入し、運用に関する検討を行った。

ネットワークや OS の更新、セキュリティ設定の切り替えに際して、ご理解・ご協力いただきありがとうございました。

平成 21 年度は、次期中期目標・計画策定の年でもありました。次期中期目標・計画の素案に対しては、三重大学を含めてほぼすべての国立大学法人（計 74 大学）が、情報セキュリティ対策に係わる事項の追加・修正を文部科学省から求められました。これは、情報セキュリティ政策会議（内閣官房長官）が策定した「第 2 次情報セキュリティ基本計画」および「セキュア・ジャパン 2009」において、独立行政法人等の情報セキュリティ対策の推進を図ることが求められているからであります。これにこたえて、三重大学では学術情報基盤の

次期中期目標を、「電子情報受発信の拠点機能を有する学術情報基盤と情報セキュリティ基盤を強化する」こととし、中期計画は、「学生及び教職員の教育研究活動等を効率的に推進するため、ユーザビリティと情報セキュリティの強化を両立する高度で堅牢なネットワーク環境を整備する、また、学生の教育・学習支援のための情報機器を充実させる」こととしました。そのために、平成 22 年度以降以下のような計画を実施していく予定です。

◎キャンパスネットワークとインターネット等の高速化及び情報セキュリティの高度化

- ・キャンパスネットワーク関連機器の増設及び更新
- ・インターネット回線の更新
- ・バックアップシステムの段階的導入
- ・ファイアウォールの機能及びウイルス対策の強化
- ・セキュア VPN サービスの導入・提供
- ・認証フェデレーションの構築
- ・学生及び職員の情報倫理に関する教育と啓蒙
- ・三重大学情報セキュリティポリシーの PDCA サイクルによる評価・改訂

◎総合情報処理センター教育用端末の整備拡充

◎利便性の維持・向上

- ・サイボウズ、ムードルなどグループウェアの活用促進
- ・ペーパーレス化・データベース化
- ・マイクロソフト社の Office 包括契約の継続
- ・情報・コンピュータ環境の拡充

◎遠隔講義・会議等システムの整備

◎ネットワーク環境・情報機器の充実策に対する検証と改善

- ・学生に対する満足度調査（アンケート調査）
- ・教職員に対する満足度調査（アンケート調査）
- ・ネットワーク環境・情報機器の充実策に対する検証
- ・検証結果に基づく改善策の策定

総合情報処理センターはこれからも全学の教員、職員、学生によりよい情報基盤サービスを提供していきますので、今後とも皆様のセンターへのご理解とご協力をお願いいたします。

キャンパスネットワーク更新

— 第5世代キャンパスネットワークについて —

総合情報処理センター 杉浦徳宏

2009年度政府補正予算による概算要求にて、突如、ネットワーク更新予算をいただけることになりましたので、2009年度末(2010年3月)にキャンパスネットワークの更新を行いましたので、そのご報告です。

まず、近年のキャンパスネットワーク整備の歴史を振り返ってみます(表1)。2001年に今回の工事と同じく政府補正予算による大規模ネットワーク更新が行われました。大規模整備は3回目になりますので、第3世代ネットワークとなりますが、基幹部分にギガビットイーサネットが導入されたため、通称ギガビットネットワークと呼んでいました。第3世代キャンパスネットワークの構成は、総情センターと各学部大容量ルータ(富士通SR8800)を置いて光ファイバで接続し、さらに各主要建屋には中容量ルータ(富士通SR5400)を置き、学部大容量ルータと光ファイバで接続する3層構造になっていました。また、ルーティングプロトコルとしては動的ルーティングプロトコルであるOSPFを使っていました。また、実際にはそれまで3世代のネットワークが増築されたもので、非常に複雑な構成をしていました。これは旧世代のネットワークをバックアップ的に使い、冗長性を確保するという目的のためでしたが、実際にはあまり有効に機能しておらず、管理が複雑になるというデメリットの方が大きいネットワークになっていました。

表1 キャンパスネットワーク関連大規模工事の歴史

2001年度	2001年6月	ギガビットネットワーク整備(第3世代)
2005年度	2005年9月	先端医科学研究棟耐震改修工事
	2006年3月	モバイルLAN工事(第1期)
2006年度	2007年3月	第4世代キャンパスネットワーク整備(第1期)
2007年度		耐震改修工事が本格化
	2007年4月	モバイルLAN工事(第2期)
	2008年3月	第4世代キャンパスネットワーク整備(第2期)
2008年度		耐震改修工事多数
2009年度	2010年3月	第5世代キャンパスネットワーク整備

しばらくの間、小規模の改変を経ながらこのネットワークを運用してきましたが、歳を経るにつれ主要装置の故障頻度が上がり修理費用がかさむようになってきました。また、キャンパスネットワークの利用の増大に装置能力が耐えられない状況も顕著になってきました。また、キャンパスネットワークとして建屋ルータまでしか VLAN が通らないという機能的な問題により、新しい論理ネットワークを必要な箇所に構成することが困難で、例えば、無線 LAN ネットワーク等の展開の障壁となっていることが問題となっていました。

このように老朽化と機能面両方からキャンパスネットワークの刷新の必要性があるという状況が続く中で、国立大学法人化を経て、ネットワーク更新は運営交付金を原資として行うようにという方針が示されたため、学内予算にて 2005 年度より三ヵ年計画で段階的な更新を行っていくことになりました。これを第 4 世代キャンパスネットワーク整備と呼びます。まず、2005 年度末に全学無線 LAN であるモバイル LAN を新たに構築いたしました。この際、VLAN をアクセスポイント接続元スイッチまで持つ必要があるため、必要な箇所の HUB をインテリジェント L2 スイッチへ変更しました。翌年、基幹系の更新を行いました。また、同時に、モバイル LAN のエリア拡張のため第 2 期工事も行っています。翌 2007 年度には主にフロアスイッチの更新のための 2 期工事を行っています。

第 4 世代キャンパスネットワークでは、基幹系のトポロジを大きく変更しています。前述のとおり、第 3 世代キャンパスネットワークでは物理的な接続構成として、総情センター～学部ルータ～建屋ルータという 3 層構造になっていましたが、第 4 世代では L3 スイッチとして総情センターにのみコア L3 スイッチ (Cisco 3750G の 4 台スタック) を置き、各主要建屋には L2 スイッチ (Cisco 2960G) を置き、その間をダイレクトに 1Gbps の光ファイバで接続するよう構成変更しました。ルーティングも静的ルーティングとしています。速度そのものは 1Gbps と第 3 世代から変わりありませんでしたが、ダイレクト接続により遅延の削減や基幹容量アップなどのメリットがあります。また、第 3 世代まで末端情報コンセントが接続されるフロアスイッチは非インテリジェントタイプでしたが、第 4 世代では全面的にインテリジェント L2 スイッチを導入し、全域で VLAN 対応可能としました。末端情報コンセントのスピードは標準では 100Mbps のままですが、希望及び需要により 1Gbps で提供することも開始しました。

さて、古い建屋については、フロアスイッチから情報コンセントまでのケーブルが、カテゴリ 5e でない部分が多くあることや、フロアスイッチからの多段カスケードによる分配線トポロジにより、インテリジェント L2 スイッチ化が困難といった問題が残っておりました。しかし、タイミングよく 2007 年度から主要建屋の耐震改修工事が本格化したため、

こうした問題を抱えていたほとんどの古い建屋が改修されることになり、ケーブルのカテゴリ 5e 化及び配線トポロジの見直しにより、基幹の 1Gbps 化、フロアスイッチのインテリジェント L2 スイッチ化を行いました。

そして、2009 年度に急遽予算をいただけることになり、第 5 世代キャンパスネットワーク整備となりました。構成図を図 1 に示します。本整備では、第 4 世代ネットワークのコア L3 スイッチ～建屋 L2 スイッチ間の 10Gbps 化のための装置変更が基本となっています。コア L3 スイッチには、Extreme 社の Summit x650 を 2 台スタック接続して用いています（他に 1Gbps 系収容のための x450 を 1 台スタック）。本装置は、10Gbps 対応の新規格である「SFP+」ポートを 24 ポート装備し、ノンブロッキングスイッチングが可能な高性能 BOX 型 L3 スイッチです。また、スタッキング速度は 256GBps あり、スタック時にも十分な性能を発揮します。各主要建屋の L2 スイッチには Extreme 社の Summit x350 を用いました。第 4 世代ネットワークと同じくこれら L3～L2 スイッチ間をダイレクトに 10Gbps で接続しました。ただし、既設の光ファイバの 10Gbps での利用に関して、シングルモードファイバは問題ないものの、マルチモードファイバは 10Gbps 対応できず、新たに 10Gbps 用光ファイバを増設敷設して対応しました。フロアスイッチの全 1Gbps 化（＝情報コンセントの全 1Gbps 化）については、予算の都合から見送りとなりました。第 5 世代キャンパスネットワークでは、基幹容量が大幅に増強されスイッチング能力もあがっていますが、利用者の皆様から見た場合、機能的には第 4 世代ネットワークとほとんど変わりません。

下記に、第 5 世代キャンパスネットワークの機能についてまとめます。

1. 基幹（コア L3 スイッチ～主要建屋 L2 スイッチ）ラインは 10Gbps。
2. 支線（建屋 L2 スイッチ～フロアスイッチ、主要建屋～周辺小規模建屋）ラインは 1Gbps。（※2010 年度内工事完了予定。基幹系については、コア L3 スイッチ周辺装置類、例えば全学 FW、認証装置等含めすべて 1Gbps 以上化されています。）
3. 主要建屋の全情報コンセントをインテリジェント L2 スイッチであるフロアスイッチに接続することにより VLAN 対応可能。
4. 各階 1 つの多ポートフロアスイッチを配し、情報コンセントへのダイレクト配線トポロジ
(※フロア面積が大きい場合には建屋 L2 スイッチ～フロアスイッチを 2 系統作ります)
5. 主要建屋のフロアスイッチの各ポートと情報コンセント設置場所の対応表管理による管理性の向上。
6. ループ検出機能の強化及びブロードキャストストーム対策。

7. シンプルトポロジによるスイッチ段数削減。(経路する装置の削減による可用性の向上。停電影響範囲の最小化(停電範囲=ネットワーク停止範囲))

今後の整備計画ですが、ネットワークの安定性向上及び高速化のためスイッチ段数削減を引き続き行っていく予定です。また、主要建屋に接続している小規模建屋ラインの完全1Gbps化を進めています。情報コンセントの完全1Gbps化については、フロアスイッチ～建屋スイッチ間の10Gbps化とあわせて進めるべきかと考えていますが、フロアスイッチに利用するアップリンク10Gbps対応の全ポート1Gbps対応L2スイッチや、建屋スイッチに利用する10Gbps多ポートL2スイッチが現時点ではまだ高価なため、導入は10GBase-Tが一般化するであろう2～3年後程度を予定しています。その間、必要な箇所には1Gbpsを提供していくサービスを行っていきますので、ご利用いただければと思います。尚、先進性を重視して高価な装置を使う場合もあるようですが、本学の場合、コストパフォーマンスを最大化しつつ必要十分な「身の丈ネットワーク」をポリシーとして整備を行っておりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

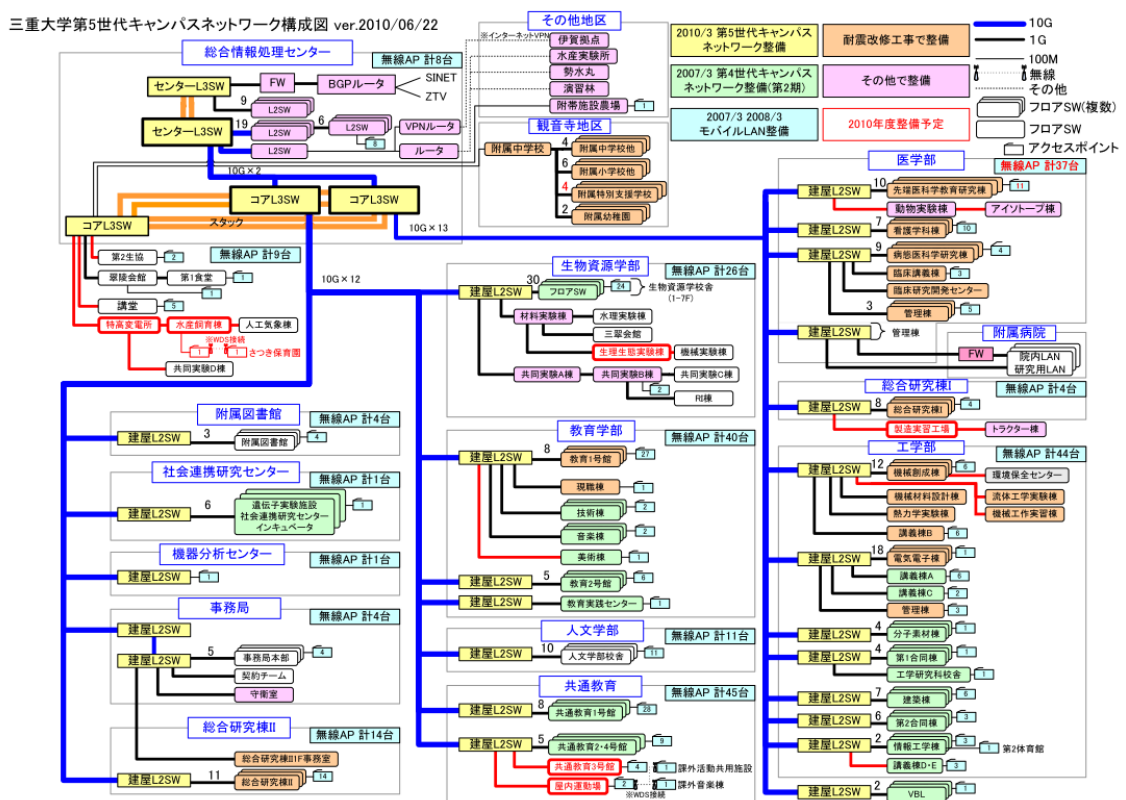


図1 三重大学第5世代キャンパスネットワーク構成図

※2010年度工事予定分(赤字)を含みます。

情報セキュリティ基盤に関する取り組み

総合情報処理センター 堀川慎一

はじめに

平成 21 年度は、情報セキュリティ基盤に関する取り組みとして、全学に提供しているウイルス対策ソフトの切り替えとともに、スタンドアロン型の侵入検知防御システムの導入を行いました。以下では、これらの詳細について説明します。

全学提供ウイルス対策ソフトの切り替え

当センターでは 2004 年より、全学に向けて Symantec 社製法人向けウイルス対策ソフトの提供を行ってきました。これに伴い、以前はしばしば見られた大規模なウイルス拡散は抑えられるようになっていきます。

しかしながら、最新版である Symantec Endpoint Protection は、最近の個人向け製品に比べると動作が非常に重い上に、リリース直後から様々な問題を抱え続けていました。特に、2008 年末に発覚したリムーバブルメディア上の Microsoft Word ファイルが消失する不具合は、共用のパソコンを多数設置している大学という環境においては極めて深刻なもので、半年以上が経過しても解消の目処が立たない状況に陥っていました。

このため、安心して利用できる他社製品として ESET NOD32 Antivirus を新たに提供し、切り替えを行うこととしました。Symantec 社製品と比較して Windows 任せのインストール関係や未知のマルウェアに対するサポートなど若干劣る面もありますが、ウイルス対策ソフトとしては十二分にその役目を果たしています。また、クライアントだけでなく管理サーバ用モジュールも非常に動作が軽快なため、キャンパスネットワークにおける Windows 端末の状況確認が容易に行えるようになりました。

Symantec Endpoint Protection もライセンス数を絞った上で提供を継続していますが、個人向けの Norton 製品のように軽量化が図られることを切に願っている次第です。

スタンドアロン型侵入検知防御システムの導入

本学では 2006 年に、インターネットとの接続点におけるファイアウォールを侵入検知防御機能を備えた Juniper Networks 社製 ISG1000 へリプレイスしました。これにより、FTP や SSH のパスワード総当たり攻撃といった古典的なものから、Web サーバへの SQL インジェクションのような日々新たに生み出される不正アクセスを防御できるようになります。

しかしながら、ISG1000 の侵入検知防御機能はあくまでもファイアウォールの付加機能に過ぎないため、あまり多くのシグネチャを適用すると、本来 1Gbps のスループットが大幅に低下するという欠点がありました。また、セッション当たりの侵入検知防御能力を基本的に向上させられない構造となっており、年々増え続けるトラフィックに対していずれ追従できなくなる状況も危惧されていました。

そこで、キャンパスネットワーク整備の一環として、同じ Juniper Networks 社製のスタンドアロン型侵入検知防御システムである IDP800 を導入することとしました。本機は ISG1000 の侵入検知防御機能と完全な上位互換性を有しており、従来の防御レベルをまったく下げることなく極めてスムーズに移行できています。また、専用機だけあってスループットの低下も格段に抑えられているため、以前より遙かに多いシグネチャを適用することによって、キャンパスネットワークの監視・防御レベルの向上を果たしています。

おわりに

以上のように、情報セキュリティの維持のため様々な方策を用いていますが、本学では毎年のように未知のマルウェアが出没しています。今年度は、いわゆる USB メモリウイルスにおいて、新たな仕組みを持つものが見つかりました。

従来の Windows を標的としたマルウェアは、Windows フォルダ以下に実体を置き、レジストリの HKEY_LOCAL_MACHINE に自動実行を仕掛けるものが主流でした。しかし、今回発見した USB メモリウイルスは、その実体を環境変数 TEMP で示される一時フォルダに置いた上、自動実行は HKEY_USERS に設定されていました。さらに、本体はエクスプローラのプロセスに挿入される DLL ファイルとなっていたため、通常の手段では発見はもちろん削除も困難です。このような場合、コマンドプロンプトで問題のファイルをリネームして Windows を再起動すれば削除可能となりますが、本体の居場所がわかんなければ為す術がありません。

今回はその存在の確認と前後して亜種が多数出没したものの、芸のないことにファイル名が同じでしたので比較的容易に駆除できましたが、一時フォルダの利用は他のマルウェアにも広がっているように見受けられます。マルウェアの作成等が金銭目的となって久しいですが、今後も新手の攻撃とのイタチごっこが続くことでしょう。

UPKI イニシアティブに関する取り組み

総合情報処理センター 三橋一郎

はじめに

UPKI イニシアティブとは、国立情報学研究所（NII）が平成 18 年から実施している全国大学共同電子認証基盤構築事業（UPKI : University Public Key Infrastructure）です。本学は、UPKI の中で実施されている「サーバ証明書プロジェクト」「学術認証フェデレーション」の 2 プロジェクトに参加しています。

サーバ証明書プロジェクト

例えば Web サイトで ID やパスワードを入力したり、クレジットカード番号などの機密情報を送受信したりするときには、それらの情報の漏えいを防ぐために SSL と呼ばれる技術を用いてサーバとの通信内容を暗号化します。この暗号化のため、およびサーバが本物であることを証明するために用いられる電子的な証明書を「サーバ証明書」と言います。

NII は平成 19 年に「サーバ証明書発行・導入における啓発・評価研究プロジェクト」（旧サーバ証明書プロジェクト）を開始し、このプロジェクトに加盟した機関は商用の証明書と同レベルの信頼性を持ったサーバ証明書を無償で取得できるようになりました。本学も平成 20 年に加盟し、これまで自己署名証明書や有償の商用証明書を用いていた学内の基幹サーバで証明書の置換えを実施しました。

平成 21 年には旧サーバ証明書プロジェクトの後継プロジェクトとして「UPKI オープンドメイン証明書自動発行検証プロジェクト」（新サーバ証明書プロジェクト）がスタートし、証明書発行手続きの一部が自動化されました。これに合わせて本学も新サーバ証明書プロジェクトに乗り換えるとともに、このプロジェクトを利用した「サーバ証明書取得代行サービス」を学内全体に対して開始しました。平成 22 年 3 月 31 日現在で、総合情報処理センター管理のサーバ 25 台、学術情報部情報基盤チーム管理の事務系基幹サーバ 6 台、学内のその他サーバ 5 台の合計 36 台で UPKI の証明書を利用しています。

学術認証フェデレーション

学術認証フェデレーション（学認）とは、学術 e-リソースを利用する大学、提供する機関・出版社等から構成された連合体で、フェデレーションが定めたポリシーを信頼しあうことで加盟機関は相互にユーザ認証の連携ができるようになります。例えば、三重大学が契約している電子ジャーナルにアクセスするには、出版社が発行する専用のアカウントで

学外からアクセス出来るものもありますが、基本的には三重大学内のネットワークからアクセスする必要があります。しかし、学認に加盟すれば、同じく学認に加盟している出版社の電子ジャーナルを閲覧する場合、総合情報処理センターが発行している「統一アカウント」を用いて学外からアクセスできるようになります。

本学は平成 21 年に学認の「テストフェデレーション」に加盟し、テスト用データベースを用いたフェデレーションへの試験接続を行ってきました。今後はテストを重ねた後で、学認への本格加盟を図っていきたいと考えています。

平成 21 年度の活動一覧

■第 1 四半期

○4 月

- ・総情センター教室システムのネットワークブート化を完了した。
- ・SAS サイトライセンスプログラムのバージョンアップ対応を行った。
- ・全学学部 1 年生を対象とした情報リテラシ・情報倫理の教材作成及び講義を担当した。
(総講義時間 45.5h)

○5 月

- ・IMail ver 8.2 → 10.0 にアップグレード
- ・教育学部 2 号館のネットワークの上流切り替えを行った。
- ・アカウント不正利用の調査、対応を行った。
- ・キャンパスネットワーク更新のための仕様策定を行った。
- ・老朽化サーバ 2 台を更新した。(mailgw2, vc2)

○6 月

- ・国立大学法人情報系センター協議会総会へ参加した。
- ・事務局のネットワークの上流切り替えを行った。
- ・基幹ネットワーク増速工事（SFP 化・事務局調達チーム・計算機棟）を行った。
- ・国立情報学研究所の UPKI オープンドメイン証明書自動発行検証プロジェクト（サーバ証明書プロジェクト）に参加し、学内全体に証明書取得代行サービスを展開した。
- ・臨床研究開発センター新営工事に関連するネットワーク工事を行った。

■第 2 四半期

○7 月

- ・総情センター提供ウィルス対策ソフトで検出不能なウィルスに対し、駆除可能となるよう迅速に対処した。

○8 月

- ・夏季集中メンテナンスを行い、バーチャルドメインサービスのサーバの更新、ホスティングサービスのサーバの更新、ポータルサーバ(pnas1,pweb1,pweb2)のアップグレードを行った。
- ・高等教育センターe-Portfolio サーバの統一アカウント連携対応を行った。

- ・情報基盤課サイボウズガルーンの統一アカウント連携対応を行った。
- ・キャンパスネットワーク更新（工事部分）のための事前調査・見積、7箇所を行った。

○9月

- ・生物資源学部校舎内のネットワークケーブル引き直し工事 10カ所を行った。
- ・第四教育端末室防音化他工事を行った。
- ・共通教育設置のモバイル情報案内システムの全面更新と増設を行った。
- ・教育学部設置のモバイル情報案内システムの増設を行った。
- ・モバイル LAN エリア拡大のため無線 LAN アクセスポイント 6 台を増設した。
- ・共通教育センターのメールサーバ、DNS サーバの機能移転を行った。
- ・附属学校改修工事に関連するネットワーク工事を行った。

■第3 四半期

○10月

- ・工学部改修工事のためのネットワーク設計及び移行プラン設計を行った。
- ・医学部管理棟改修工事のためのネットワーク設計及び移行プラン設計を行った。
- ・全学長時間停電時に無停止となるよう対応を行った。
- ・遺伝子実験施設、社会連携センター内配線の最適化を行った。
- ・老朽化サーバ 2 台を更新した（mailgw1,vc1）
- ・生物資源学部 B 棟改装工事に関連し基幹ネットワークの増強を行った。
- ・基幹ネットワーク増速工事（S F P 化）
- ・7 箇所(生物資源本館-生物資源共同実験 A 棟、生物資源本館-材料実験棟、材料実験棟-水理実験棟、材料実験棟-三翠会館、生物資源共同実験 A 棟-生物資源共同実験 B 棟、生物資源共同実験 B 棟-RI 棟、生物資源共同実験 B 棟-生物資源共同実験 C 棟)を行った。
- ・学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点公募型共同研究（試行）において、「アカデミッククラウド環境におけるソーシャルコンピューティングアーキテクチャの構築」が採択された。
- ・遺伝子実験施設のメールサーバの機能移転を行った。
- ・三翠会館用ネットワークの生物資源学部水理実験棟迂回工事を行った。

○11月

- ・工学部分子素材の DNS サーバの機能移転を行った。
- ・工学部分子素材のウェブサーバの機能移転を行った。

- ・ 共通教育センターのメールサーバの機能移転を行った。
- ・ 社会連携センターのメールサーバの機能移転を行った。
- ・ 学術認証フェデレーション及び SINET 4 説明会（主催・国立情報学研究所、開催地・名古屋大学）へ参加した。
- ・ 総情センター教室パソコンに USB メモリ抜き忘れ防止対策を施した。
- ・ 学術認証フェデレーション実証実験へ参加開始した。
- ・ 高等教育センター授業評価アンケートシステムの統一アカウント連携対応を行った。
- ・ キャンパスネットワーク更新のための技術審査を行った。

○12 月

- ・ 学内認証局設立に関する検討を行った。
- ・ 広報誌(2009 年度)の発行を行った。
- ・ 東海地区大学センターシステム研究会へ参加した。
- ・ サイトライセンスソフトウェアとして SPSS, Mathematica の提供を開始した。
- ・ SPSS の Advanced Statistics および Regression モジュールの提供を開始した。
- ・ 2010 年 2 月に第四教室の端末 140 台を利用して実施予定の医学部共用試験(CBT)の事前動作確認とデータ収集の対応を行った。
- ・ 認証サーバの 2 重化を行った。
- ・ 教室パソコンで、ホームフォルダの使用量上限を超えた際に、メール通知とログオン時にポップアップ通知をするようにした。
- ・ 教室パソコンのソフト利用率のログを取るようにした。
- ・ 総情センター提供ウィルス対策ソフト（SEP、NOD32）の更新版の提供を開始した。
- ・ 部局管理者宛にサポートを終了したウィルス対策ソフト（SAVCE）を使用中の主なパソコンを連絡し、最新版（NOD32、SEP）への移行を依頼した。
- ・ 現在のゲートファイアウォールとその管理ソフトウェア（NSM）に対し、バージョンアップによる機能強化点の調査を行った。
- ・ 次世代型ファイアウォール（Palo Alto Networks PA シリーズ）について調査を行った。
- ・ 台風による漏水被害への補修工事を行った。
- ・ 主機室エアコン 1 台の更新を行った。
- ・ 図書館 2 階の SW 収納ラックを静音ラックに更新した。
- ・ キャンパスネットワーク更新の光ファイバ敷設工事について、計画、調整を行った。
- ・ 学務部の依頼により、課外活動団体からの各種申請・届け出等を Web 上から行うワークフローシステムの統一アカウント外部システム連携を行った。

- ・広報室の依頼により、新職員録システム構築に関し、統一アカウントと関連する部分の技術相談を行った。
- ・自然災害対策室の依頼により、緊急地震速報システムに関し、同配信サーバによる学内ネットワークを利用した情報配信とポップアップアプリケーション導入に関連する技術相談を行った。
- ・高等教育創造開発センターの依頼により、ラーニング commons の Web カメラによる監視システムの構築に関し、システム全般と学内ネットワーク利用に関連する技術相談を行った。
- ・附属小学校教頭より、校内ネットワークにおける教員室と教室の切り分けに関する技術相談を受け、ヒアリングおよび基本構成の検討を行った。
- ・平成 21 年度学術情報基盤実態調査に回答した。
- ・教室での講義利用時のアクセス制限に対応した。
- ・教室ソフトウェアの Windows7 の動作検証を実施した。
- ・メーリングリストサーバ(I Mail Server)のバージョンアップを実施した。

■第4 四半期

○1 月

- ・ IC 学生証・教職員証の導入に関する相談に対応した。
- ・大判プリンタ出力サービス用 PC に Mac と Windows をデュアルブートするようにして、OS の違いによるトラブルの軽減に取り組んだ。
- ・教育学部（2 号館、技術棟、美術棟の 7 箇所）で収納ボックス整備工事およびネットワーク配線の集約、引き直し工事を行った。
- ・教育学部（2 号館 3 階）へのモバイル LAN アクセスポイント増設工事を行った。
- ・生物資源学部（6 箇所：生物資源学部校舎 1，2 階）で収納ボックス整備工事を行った。
- ・キャンパスネットワーク更新の光ファイバ敷設工事（6 箇所：総合研究棟 1、SVBL 棟、教育学部 2 号館、美術棟、図書館、事務局）を行った。
- ・ネットワーク専門委員会を行い、セキュア VPN、学生用メールシステムの外部委託について、承認をもらった。

○2 月

- ・国立情報学研究所 UPKI プロジェクトによる学術認証フェデレーションへの接続テストを行い、技術面の検証を行った。
- ・ IC 学生証・教職員証の導入に関する相談に対応した。

- ・広報チームが実施する個人情報保護監査に、監査員として協力した。
- ・アクセス回線共同調達説明会（主催：国立情報学研究所、開催地：東京）に参加した。
- ・京都大学学術情報メディアセンターシンポジウム（主催：京都大学学術情報メディアセンター、開催地：京都）に参加した。
- ・東海アカデミッククラウド共同研究の会合（主催：名古屋大学情報基盤センター、開催地：名古屋）に参加した。
- ・ゲートファイアウォールと事務用 LAN ファイアウォールの統合について検討を行い、周辺を含めた構成変更内容を決定した。
- ・附属小学校のネットワーク再編についてさらなるヒアリングと詳細検討を行い、基本方針を決定した。
- ・機器分析センター建屋スイッチ移設工事およびネットワーク配線の集約、引き直し工事を行った。
- ・施設部の依頼により、図書館太陽光発電システムのネットワーク接続対応を行った。

○3月

- ・サーバの老朽化に伴い、TOEIC 英語自習システムのサーバ更新を行った。
- ・人文学部の依頼により、人文学部のメールサーバをバーチャルドメインサービスへ機能移転を行った。
- ・人文学部の依頼により、人文学部の DNS サーバをバーチャルドメインサービスへ機能移転を行った。
- ・政府補正予算による第5世代キャンパスネットワーク更新（コア、エッジ）を行った。
- ・工学部（管理棟、機械実験2棟）改修工事に関連するネットワーク工事を行った。
- ・医学部管理棟改修工事に関連するネットワーク工事を行った。
- ・動物実験施設への光ファイバ新設および UTP 線追加工事を行った。
- ・附属学校園の改修工事対象外の6棟（特別支援高等部、中等部、幼稚園管理棟、第一特別教室棟、第二特別教室棟）で光ファイバ化工事、収納 BOX 化工事および新 UTP 線切り替え工事を行った。
- ・翠稜会館への光ファイバ新設工事および同キャリア支援センター改修工事に関連するネットワーク工事を行った。
- ・講堂小ホールへのモバイル LAN アクセスポイント増設工事を行った。
- ・総情センター教育端末室（第1～5、図書館）のヘッドフォン更新および増設を行った。
- ・総合情報処理センター教育端末室の OS を Vista から 7 にアップグレードした。
- ・春季集中メンテナンスにおいて、IDP 専用機の導入、教室系ファイアウォールのファー

- ムウェア更新及び、モバイル LAN アクセスポイントのファームウェア更新と、同時にセキュリティ設定を WEP から WPA2-AES への切り替えを行った。
- ・ 学生用メールシステムを Google 社の Gmail (Google Apps Education Edition) を利用する形に更新した。また、このために必要な統一アカウントとの連携システムの構築を行った。
 - ・ モバイル LAN エリア拡大のため無線 LAN アクセスポイント 8 台を増設した。
 - ・ メディアホール老朽化設備の更新を行った。
 - ・ 生物資源学部ホームページ (本部広報室) のリニューアル対応を行った。
 - ・ 三重大学ホームページ (本部広報室) のリニューアル対応を行った。
 - ・ 高等教育創造開発センターの依頼により授業評価アンケートシステムとの統一アカウント外部システム連携を行った。
 - ・ 高等教育創造開発センターの依頼により eportfolio システムとの統一アカウント外部システム連携を行った。
 - ・ 就職支援チームの依頼により求人票管理システムとの統一アカウント外部システム連携を行った。
 - ・ 総情センターと附属図書館のモバイル情報案内システムのディスプレイ機器の更新を行った。
 - ・ ゲートファイアウォールと IDP 専用機の管理サーバ (NSM) の更新を行った。
 - ・ ゲートファイアウォールに事務用 LAN ファイアウォールを統合した。
 - ・ IDP 専用機を導入しキャンパスネットワークの監視・防御体制を強化した。
 - ・ 附属小学校のネットワーク再編について詳細を決定し、その事前準備と運用コスト削減のため教育用ファイアウォールの構成変更を行った。
 - ・ VPN 接続サービスと業者のリモートメンテナンス用セグメントをキャンパスネットワークと隔離する形でゲートファイアウォールに設けた。
 - ・ インフォメーションセンター、守衛室改修工事に関連するネットワーク工事を行った。
 - ・ 総情センター老朽化エアコンの更新工事 (5 台: 第 1 教室 3 台、第二教室 1 台、主機室 1 台) を行った。
 - ・ 事務局入退室管理システム工事に関連するネットワーク設定を行った。
 - ・ 学内認証局設立のための電子証明書発行機 (プライベート CA 機) を導入し、運用に関する検討を行った。
 - ・ UPKI シンポジウム 2010 (主催: 国立情報学研究所、開催地: 東京) に参加した。
 - ・ 統合認証シンポジウム (主催: 佐賀大学総合情報基盤センター、開催地: 佐賀) に参加した。

- ・東海アカデミッククラウド研究会（主催：名古屋大学情報基盤センター、開催地：名古屋）に参加した。
- ・共通教育からのモバイル情報案内システムの機能追加要望に対応した。

■定型作業の集計(期間 2009/4/1～2010/03/31)

◇統一アカウント関係

- ・学生への統一アカウントの発行：2243 件
- ・教職員への統一アカウントの発行(再発行) 373 件（76 件）
- ・デイリーアカウント発行 58 件
- ・その他区分での統一アカウントの発行 10 件

◇教育用システム

- ・プリンタ使用枚数追加申請 217 件
- ・教育用パソコンのハードウェア故障に対する不具合対処 12 件

◇メール系サービス関係

- ・@mie-u.ac.jp 転送サービスの申請 19 件
- ・メールゲートウェイシステムの申請 2 件
- ・メーリングリストサービス申請 0 件
- ・卒業後（アカウント削除後）のメール転送申請 8 件

◇サーバ証明書取得代行サービス

- ・UPKI サーバ証明書プロジェクトを活用した証明書の発行申請 35 件

◇ホスティングサービス関係

- ・ホームページサービスの申請 41 件
- ・ホスティングサービスの申請 16 件

◇サイトライセンスソフトウェア関係

- ・Matlab フローティングライセンスプログラムの申請 15 件
- ・SAS フローティングライセンスプログラムの申請 7 件
- ・Mathematica フローティングライセンスプログラムの申請 12 件
- ・SPSS フローティングライセンスプログラムの申請 41 件

◇キャンパスネットワーク管理関係

- ・ Firewall 通過申請他関連設置 52 件
- ・ 受変電設備等法定点検および改修工事等による停電後のネットワーク状況確認 53 件
- ・ ネットワーク接続申請 13 件
- ・ 外来者ネットワーク接続申請 9 件
- ・ 教育用 LAN 固定 IP アドレス申請 13 件
- ・ 学外ネットワーク引き込み申請 1 件
- ・ 総情センターで管理している Linux 系サーバのセキュリティアップデート 63 件
- ・ JPCERT/CC WEEKLY REPORT と最新のセキュリティ情報 48 件
- ・ 総情センター提供ウィルス対策ソフトに関するヘルプデスク（電話対応もあるため概数）
27 件 うち Q4 6 件
- ・ セキュリティインシデントに対する監視と対処
 - 調査依頼 23 件
 - 緊急遮断 17 件
 - ウィルス感染 15 件
 - P2P アプリケーションの不正利用 3 件
 - 不正アクセスによるシステム改竄 0 件
- ・ 障害対応 45 件
 - 停電、電源断対応 13 件
 - ブロードキャストストーム 11 件
 - 機器障害 7 件
 - その他 14 件

◇その他のサービス

- ・ 大判プリンタ出力サービス 124 件
- ・ メディアクラッシュサービス 26 件

◇問い合わせ対応

- ・ メール関連に関する問い合わせ（外部からの不達、クォータ超過、利用方法） 27 件
- ・ 教室利用に関する問い合わせ 7 件
- ・ ソフトウェア使用方法（AutoCAD、Windows、IME 他）に関する問い合わせ 6 件
- ・ ネットワーク構築に関する問い合わせ 6 件

- ・ネットワーク利用に関する問い合わせ（教育用 LAN、モバイル LAN、Opera Unite）
14 件
- ・サーバ利用に関する問い合わせ 3 件
- ・Polycom 利用に関する問い合わせ 5 件
- ・ライセンスソフトウェア利用に関する問い合わせ 27 件
- ・各種システム構築相談に関する問い合わせ 10 件
- ・モバイル情報案内システムに関する問い合わせ 1 件
- ・その他の問い合わせ 8 件

ご挨拶

総合情報処理センター 伊藤舞

平成 22 年 4 月 1 日付で技術職員として総合情報処理センターに採用されました、伊藤舞と申します。よろしくお願いいたします。

私は、平成 22 年 3 月に愛知工業大学工学部 電気学科情報通信工学専攻を卒業し、大学では主に電気や通信の勉強をしてきました。卒研は井教授の音響工学研究室では VB を使って元の音源とマイクから拾ったスピーカ音源の開始時間、終了時間を合わせる研究をしておりました。

大学で学んだ知識を生かしたいと思い国立大学法人の技術系職員試験を受験しましたが、総合情報処理センターに採用されてから一月近く経っても まだ覚えることがたくさんあり、なかなか理解できず苦戦しています。できないことばかりです。

コンピュータには より高スペックで使いやすく そして素敵な GUI、インターネットの高速化 などが求められています。しかし内部はブラックボックス化されていて分かりづらくなり、そのうえでセキュリティ管理をしっかりしなくてはいけなくなりました。仕事の一つに Firewall 通過申請の設定がありますが、責任をもって取り組んでいくつもりです。

情報の分野に進もうと思ったきっかけは今思うと、私が小学生の時に母がパソコンを買ってきたのが始まりだったと思います。知り合いの作った教育用ミニゲームが保存されている FD を挿して遊んだ時には なんてすごい機械だ と感動した記憶があります。成果がでたり新たな発見をしたときは感動しますが、私はこのような感動をより多くの人と共有したいと考えています。

また、皆さんが安心してまた勉強、研究などを円滑に進められるよう、大学内のネットワーク環境を維持、向上していくことが必要だと思います。そのために、まずは仕事を覚えビジョンをたてていきたいです。仕事を教わりながらの毎日でご迷惑をおかけしているかと思いますが、熱意をもって精励いたしますので、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

センター利用状況

1 教室利用統計

1.1 教室利用時間割

(1) 前期

		1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
		8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	第1	ISO 環境管理学 共 (佐藤 邦夫) 75 人	計量経済学 人 (水落 正明) 50 人	建築情報処理 基礎 共 (北野 博亮) 55 人		
	第2		情報科学 共 (武本 行正) 30 人			情報科学基礎 I 共 (弓場, 高瀬, 根津, 森川) 40 人
	第3	情報数学要論 II 教 (武本 行正) 20 人				
	第4 A	視聴覚教育 人 (須曾野 仁志) 50 人	計算機工学 II 工 (鶴岡 信治) 90 人	教育学 人 (須曾野 仁志) 120 人	情報科学基礎 A, C 共 (中野 正孝) 100 人	情報科学基礎 B, D 共 (中野 正孝) 100 人
	第4 B					
	第5	オリエンテーシ ョンセミナー 人 (水落 正明) 20 人 4月20日から 5月25日まで				
火	第1		計算機基礎 共 (小林 正) 50 人		情報科学基礎 共 (東 廉) 40 人	
	第2	応用環境情報学 特論 生 (佐藤 邦夫) 20 人	数値計算と 統計処理 I 共 (井岡 幹博) 40 人		情報科学基礎 共 (山田 雄司) 40 人	
	第3					
	第4 A	オリエンテーシ ョンセミナー 人 (伊藤 睦) 80 人 4月21日から 5月26日まで	情報科学基礎 共 (魚住 明生) 50 人			情報科学基礎 共 (長井 務) 70 人
	第4 B					
	第5					

水	第1					
	第2		情報メディアの活用 人(小山 憲司) 25人		英語Ⅱ総合 共 (折原 真希子) 20人	
	第3					
	第4A	情報科学基礎 共(三谷 昌輝, 大西 拓)		情報科学基礎・(基礎) 共(植木 洋)	情報科学基礎・(応用) 共(植木 洋) 40人	
	第4B	110人		100人		
第5	オリエンテーションセミナー 人(深井 英喜) 20人 4月22日から 5月27日まで				PBLセミナー 共(東 廉) 25人	
木	第1	計量経済学 人(水落 正明) 50人	学術情報論A 人(小山 憲司) 50人	機械設計基礎及び製図演習 工(中村 裕一・松井 正仁) 60人		
	第2		数式処理 教(萩原 克幸) 20人	CAD製図 生 (エムディ・ザカリア・ホセイン) 30人	ロボット工学特論 工(加藤 典彦) 30人	
	第3					
	第4A	オリエンテーションセミナー 人(落合 隆) 60人 4月23日から 5月28日まで	教育工学演習 教(下村 勉) 45人	プログラミング 演習Ⅱ 工(鶴岡 信治)	情報科学基礎 共(奥村 晴彦) 50人	
	第4B			90人		

	第5		家庭情報処理, 消費情報処理 教(長井 務) 20名			ヨーロッパ・地 中海の風土と地 誌 人(東 廉) 30人
金	第1	オリエンテーシ ョンセミナー 人(青木 雅生) 60人				
	第2	応用シミュレ ーション工学 生(佐藤 邦夫) 30人		建築情報処理 応用 工(北野 博亮) 20人		
	第3					
	第4 A	情報科学基礎 共(伊藤 厚貴) 40名	情報科学基礎 共(宮岡 邦任) 50人			計算機基礎 I 及び演習 共(北 英彦) 100人
	第4 B					
第5		PBLセミナー 共(東 廉) 30人		ヨーロッパ・地 中海地誌 演習C・D 人(東 廉) 15人		

(2)後期

		1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
		8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
月	第1		情報科学 共 (武本 行正) 30人	機械設計製図演習 工 (松井 正仁) 60人		計算機言語 工 (野呂 雄一) 50人
	第2					
	第3	情報数学要論Ⅱ 教 (武本 行正) 20人				
	第4 A	プログラミング 言語 工 (高瀬 治彦) 80人	情報化社会と 著作権 共(須曾野 仁志) 70人			
	第4 B					
	第5			先端融合工学 特論Ⅲ 地 (萩原 克幸) 13人		
火	第1	プログラミング演習Ⅰ 工 (森 香津夫) 50人(隔週)				
	第2		コンピュータ 教育 教(松浦 均) 35人			
	第3	バイオマス 利用学 生(佐藤 邦夫) 5人				
	第4 A		数値計算と 統計処理Ⅱ 共(井岡 幹博) 60人	教育実践演習・ 情報表現とメデ ィアリテラシー 共 (須曾野 仁志) 60人		基礎物理学Ⅰ 共 (佐藤 邦夫) 60人
	第4 B					
	第5					

水	第1					機械設計製図工 (鎌田, 西村, 安藤) 100人
	第2					
	第3	地域経営工学演習工 (浦山 益郎) 15人				
	第4A	電子計算機プログラミング及び演習共 (前田 太佳夫・鎌田 泰成) 100人 2~4限	情報科学演習生 (中西, 大井, 山田, 近藤) 80人			
	第4B					
第5						
木	第1	数値熱流体力学工 (辻本 公一) 100名	学術情報論B人 (小山 憲司) 50人		フィールドサイエンス実習生 (佐藤 邦夫) 30人	フィールドサイエンス実習生 (佐藤 邦夫) 30人
	第2		情報科学共 (谷口 礼偉) 25人	電気電子設計 (制御システム設計)工 (駒田 諭) 27人		
	第3					
	第4A		教育工学教 (下村 勉) 50人	電気電子設計 (ソフトウェア設計)工 (北 英彦) 20人		
	第4B			電気電子設計 (電磁界解析)工 (首藤 雅夫) 26人		
	第5	情報科学基礎・(応用)共 (森 久綱) 30人		環境情報システム工学実習I生 (鬼頭 孝治) 20人 5~7限		ヨーロッパ・地中海の風土と地誌A・B人 (東 廉) 30人
金	第1					
	第2		応用制御工学特論生 (佐藤 邦夫) 15人			
	第3			機電工学実験II工 (永住 和寛) 14人		計算機基礎IIおよび演習工 (北 英彦) 2人
	第4A		システム制御工学工 (加藤 典彦) 80人			
	第4B					
	第5				情報システム概論教 (萩原 克幸) 20名	

(3) 随時

利用期間	利用 教室	所属学部	授業名
2009			
4/11 (13:00～16:10)	1	人文学部	担当教員講習会
4/15(14:40～16:10)	4	図書館講習会 (文献検索講習会)	看護研究方法論
4/15, 22(13:00～14:30)	1,2	工学部	機械工学フレッシュマンゼミナール
5/7(16:20～17:50)	1	教育学部	人間発達科学研究演習
5/12, 6/16, 7/14, 21, 28 (13:00～14:30)	4	工学部	工場見学
5/13, 20, 27 (13:00～14:30)	1,2	医学部	看護研究方法論
6/16(16:20～17:50)	1	工学部	電気電子工学科 1 年次研究室見学
6/17(10:30～12:00)	2	医学部	地域看護学ゼミナール
7/15(10:30～12:00)	4	図書館講習会 (生物資源学部)	生物資源情報学
7/29(13:00～16:10)	1	社会教育主事講習	生涯学習概論
8/3(13:00～17:50)	4	津市公立学校教員	パソコン研修会
8/5～7(16:20～17:50)	2	生物資源学研究科	海洋個体群動態学特論
8/7(14:40～15:50)	2	工学部	プログラミング演習Ⅱ
8/7(8:50～17:50)	4	教員免許状更新講習	Web プログラミング
8/7(8:50～17:50)	4	教員免許状更新講習	データ解析入門
8/24(8:50～17:50)	2	教員免許状更新講習	インターネットと数学教材
8/24～28(10:30～16:10)	3	人文学部	計量政治学
8/31 (8:50～17:50)	4	教員免許状更新講習	教育における ICT 活用
9/4 (8:50～12:00)	4	工学部	知的財産権概論 特別講義Ⅱ(合同)
9/16, 18 (8:50～12:00)	4	工学部	知的財産権出願特論
9/17 (13:00～17:50)	2	生物資源学部	水圏生命科学特別講義Ⅰ
9/18 (8:50～17:50)			

9/19(8:50~17:50)	4	教員免許状更新講習	データ解析入門
8/29, 30(8:50~16:10)	1	職員チーム	三重大学事務情報化研修
11/27(13:00~16:10)	2	図書館講習会 (文献検索講習会 他)	食品デザイン学実習
12/2(13:00~17:50)	3	人文学部	経営学総論演習
12/16(13:00~17:50)	3	人文学部	経営学総論演習
12/22(14:40~17:50)	1	市内学校図書館関係者	図書館運営研修講座
12/22(13:00~16:10)	4	医学部	医学科教養試験 CBT 一動作試験
2010			
1/5 (13:00~17:50) 1/6 (8:50~17:50)	4	人文学部	教育学
1/7 (13:00~16:10)	1	人文学部	経営学総論演習
1/8 (14:40~17:50)	2	人文学部	経営学総論演習
1/13 (13:00~17:50)	3	人文学部	経営学総論演習
1/15 (13:00~16:10)	3	情報基盤チーム	情報ネットワーク専門委員会
2/18 (8:50~16:10)	1	職員チーム	三重大学事務情報化研修
2/5 (13:00~16:10)	4	医学部	医学科共用試験 C B T
3/3, 11, 18, 25 各木曜(16:20~20:50)	1	知的財産統括室	Mip 特許塾
3/5 (14:40~16:10)	3	生物資源学部	応用シミュレーション工学補講
3/19 (13:00~14:30)	3	人文学部	オリエンテーションセミナー

1.2 端末利用時間・のべ利用者数・実利用者数

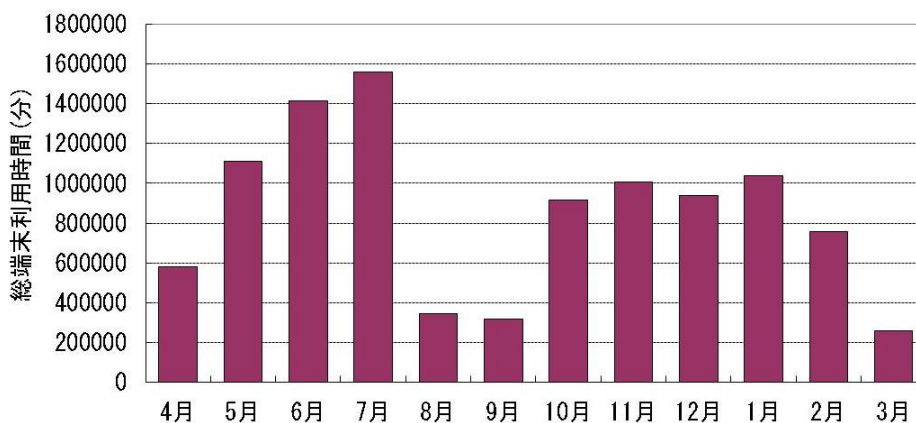
2009/2/26 よりシステムリプレイスに伴い、本年度から図書館端末の利用も含まれています。2009 年度分を対象としています。特記なき「学年」は、学部生の学年です。

(1) 端末利用時間

端末利用時間に関する統計です。

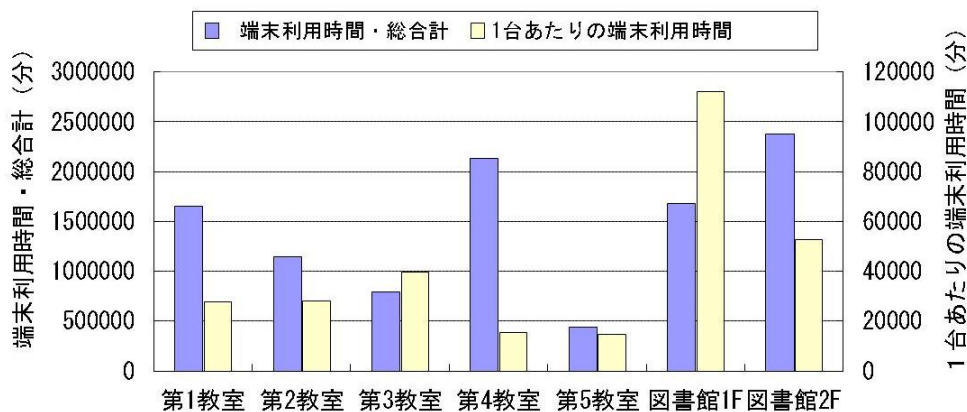
(a) 端末利用時間（月別）

総端末利用時間を月別に集計してあります。



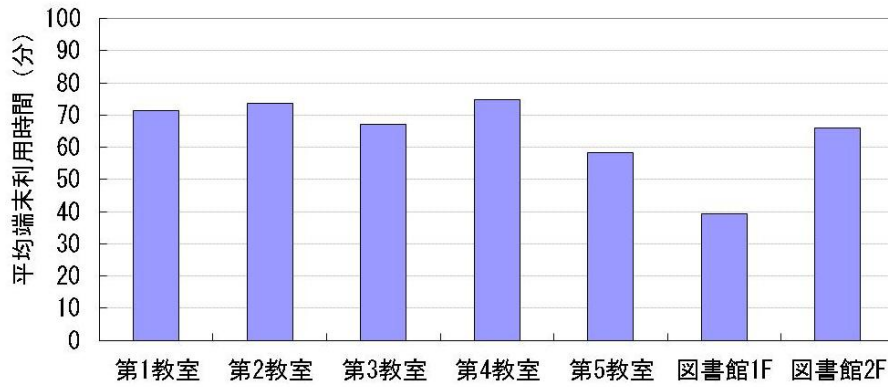
(b) 端末利用時間（教室別）

端末利用時間の総合計と1台あたりの端末利用時間を、教室別に示しています。



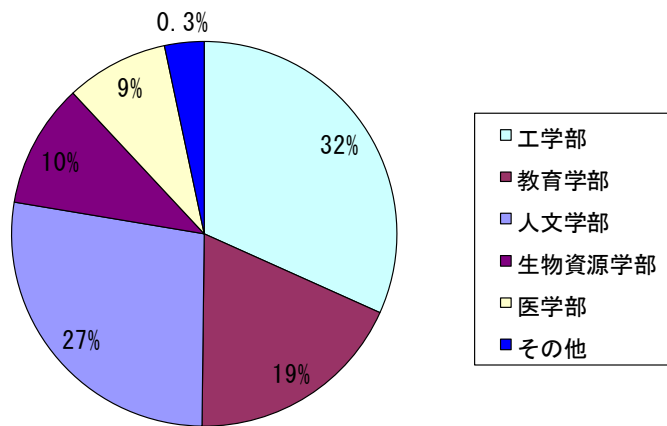
(c)平均端末利用時間（教室別）

利用者が1日に端末を利用する上での、平均端末利用時間を教室別に示しています。



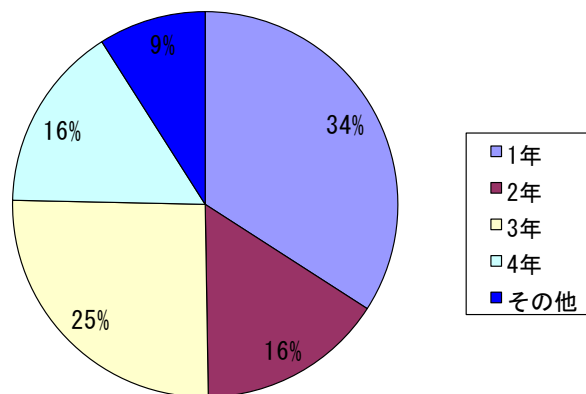
(d)端末利用時間（学部別）

総端末利用時間の学部別割合を示しています。



(e)端末利用時間（学年別）

総端末利用時間の学年別割合を表しています。

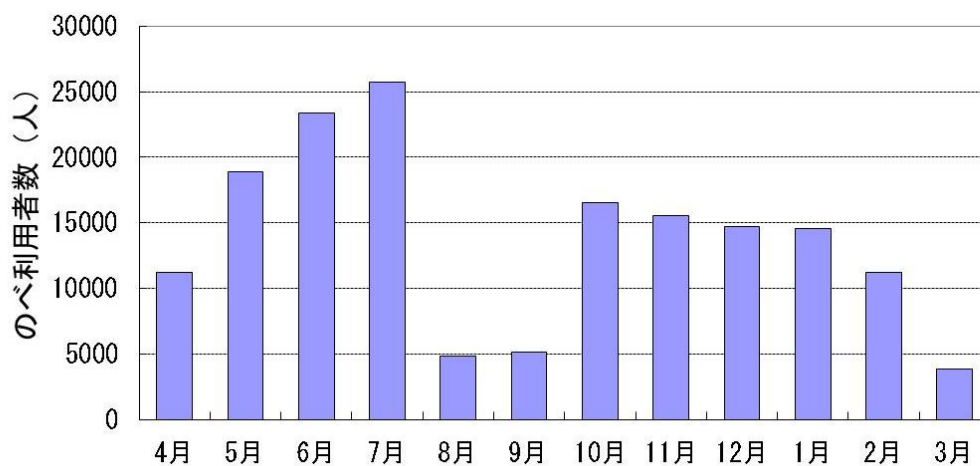


(2)のべ利用者数

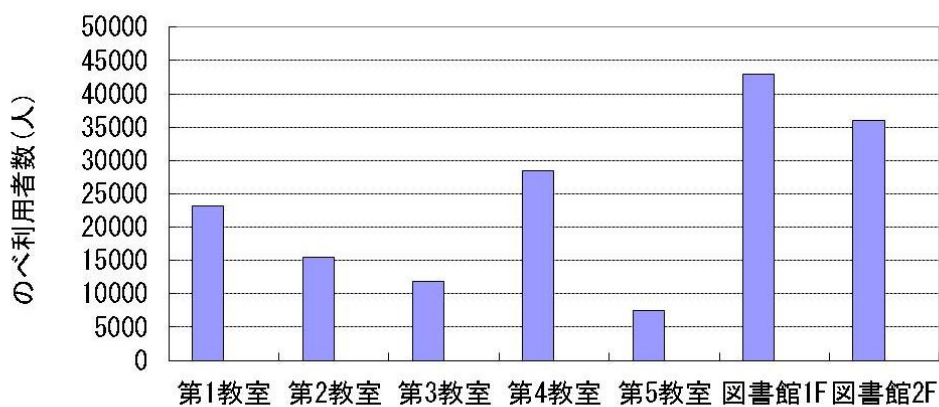
端末を利用した、のべ利用者数に関する統計です。

(a)のべ利用者数（月別）

月ごとの、のべ端末利用者数を計上してあります。

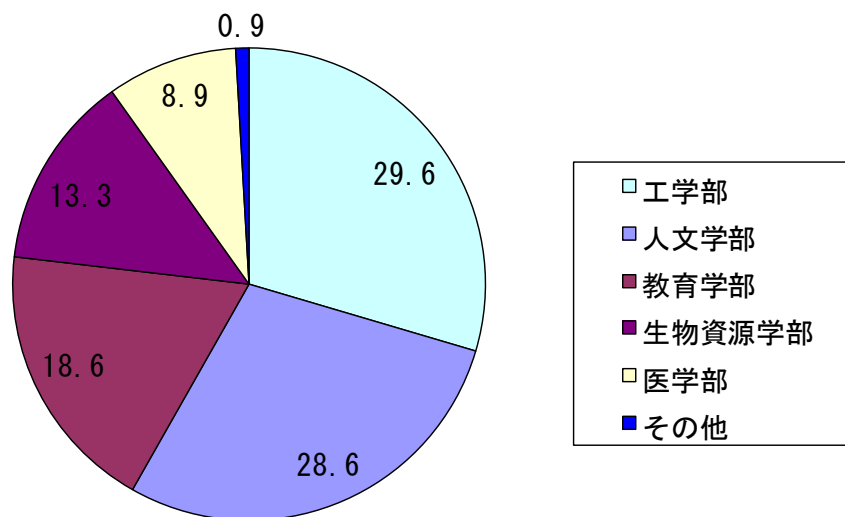


(b) のべ利用者数(教室別)



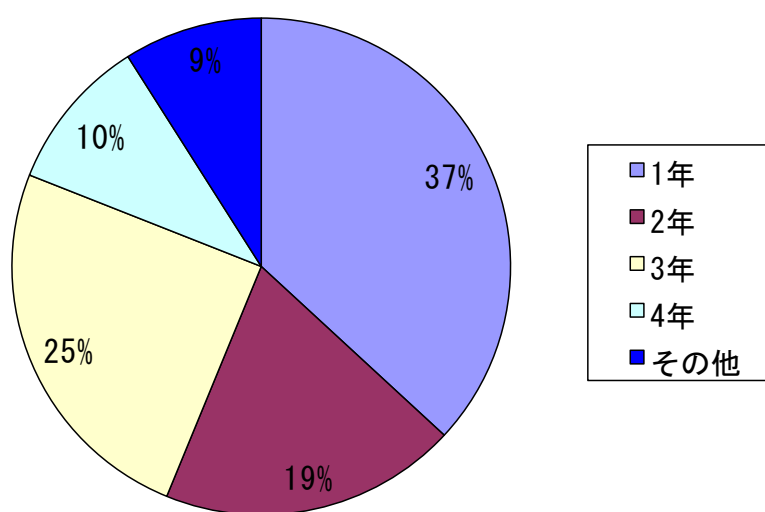
(c)のべ利用者数（学部別）

のべ利用者数の学部別割合を示しています。



(d) のべ利用者数（学年別）

のべ利用者の学年別割合を示しています。

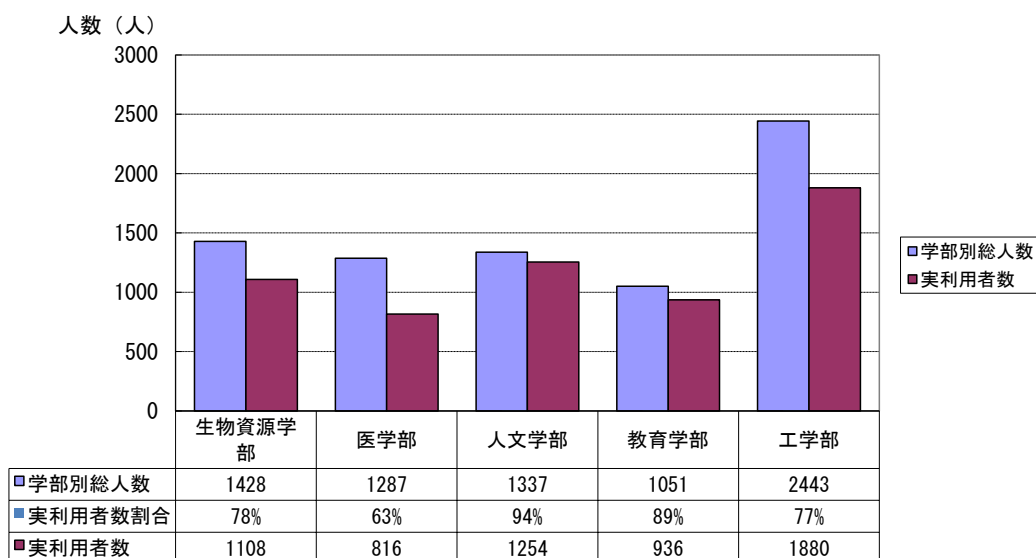


(3)実利用者数

のべ利用者数と異なり、同一利用者の重複をカウントしない実利用者に関する統計です。

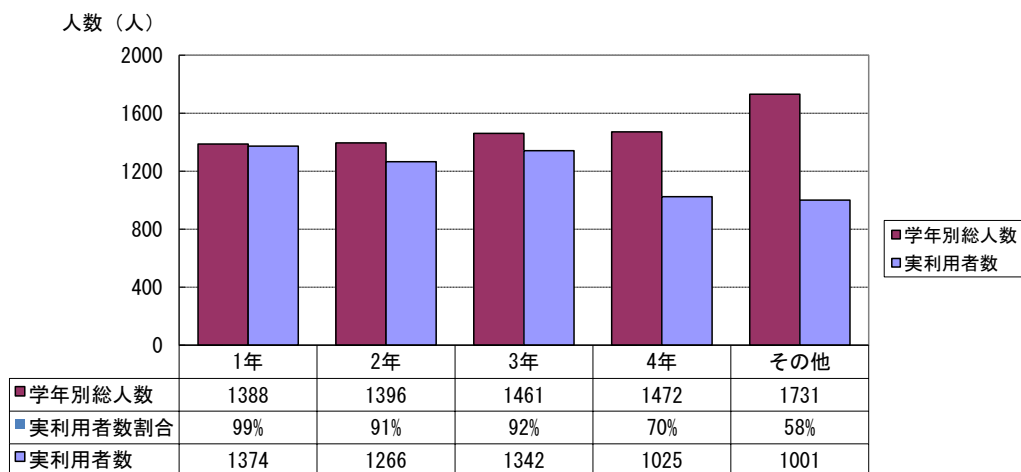
(a)学生総数に対する端末実利用者数及び学部別割合

アカウント発行対象学生数（ほぼ全学生）に対する端末の実利用者数と、その学部別割合を示しています。



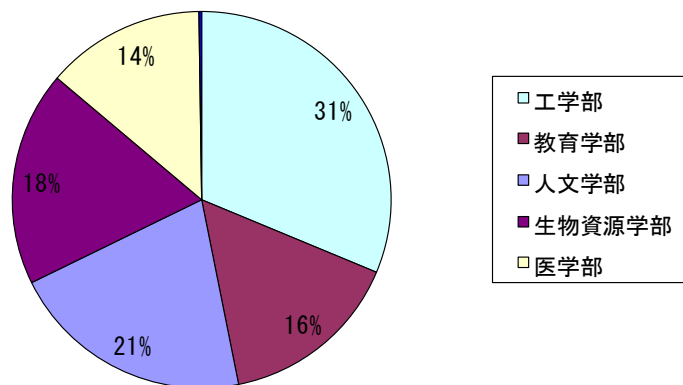
(b)学生総数に対する端末実利用者数及び学年別割合

アカウント発行対象学生（ほぼ全学生）に対する端末の実利用者数学年別割合を示しています。



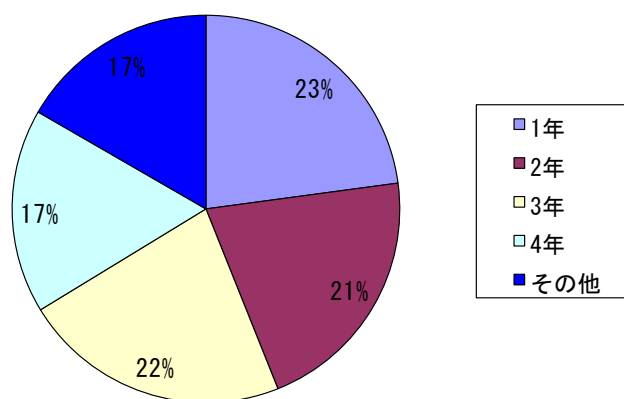
(c)実利用者数（学部別）

実利用者数の学部別割合を示しています。



(d) 実利用者数における学年別割合

(c)と同様に実利用者にのみ着目した学年別割合を示しています。

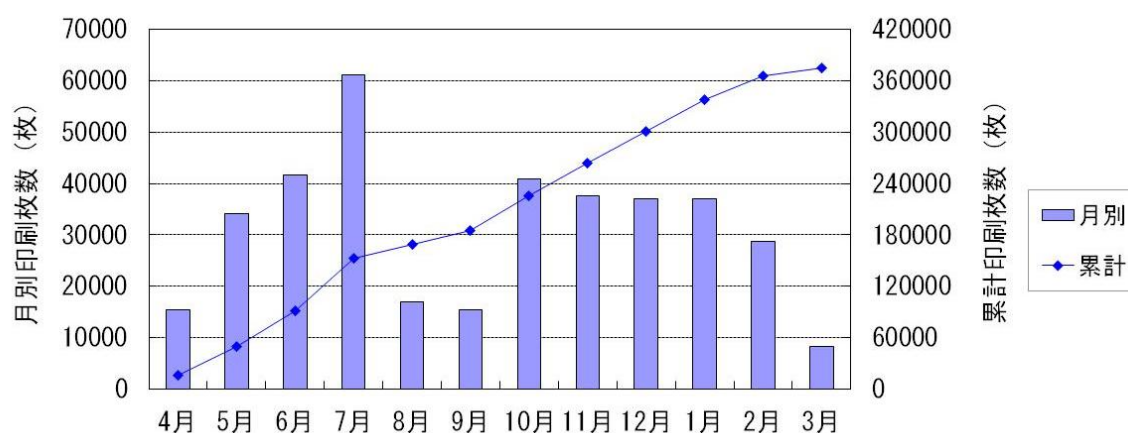


1.3 印刷関連統計

2009/2/26 よりシステムリプレイスに伴い、図書館端末からの印刷枚数も含まれています。プリンターの設定ミスのために、2010年4月、5月の図書館の集計データの一部に抜けがあります。申し訳ありません。

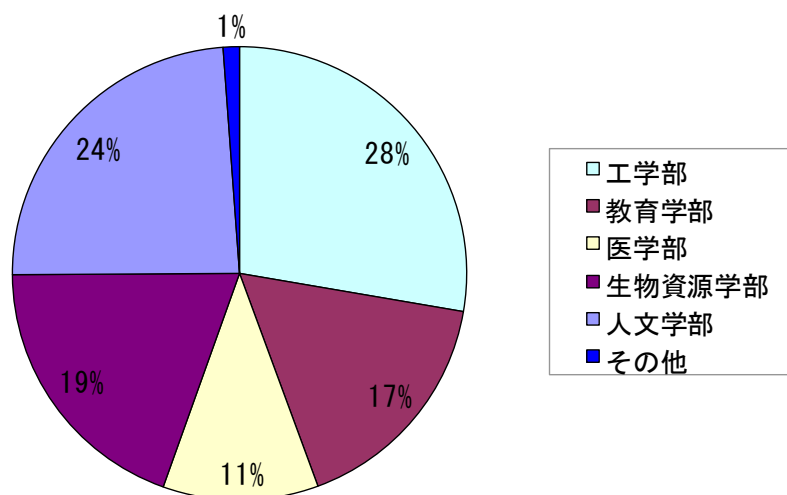
(a)印刷枚数（月別）及び累計

月別の印刷枚数および累計印刷枚数を示しています。



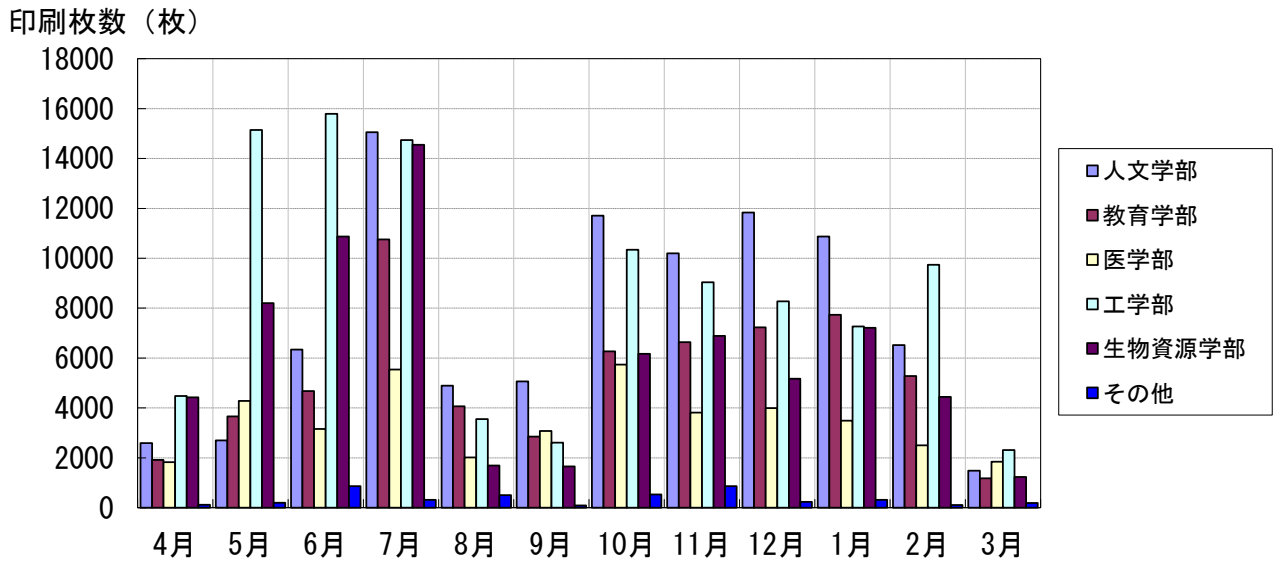
(b)印刷枚数（学部別割合）

総印刷枚数の学部別割合を示しています。



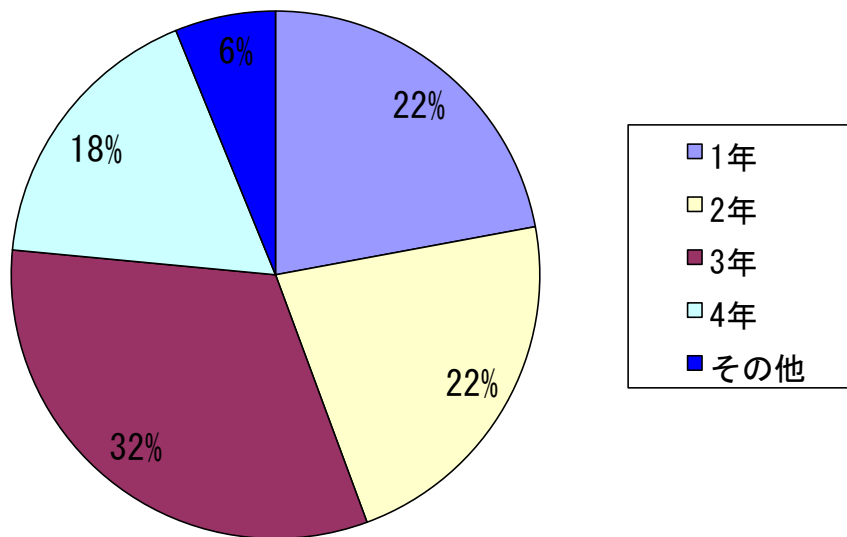
(c)印刷枚数推移（学部別）

学部別印刷枚数の推移を月別に示しています。



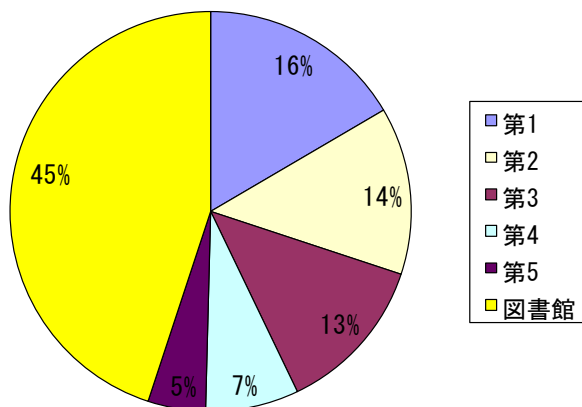
(d)印刷枚数・学年別割合

総印刷枚数の学年別割合を示しています。



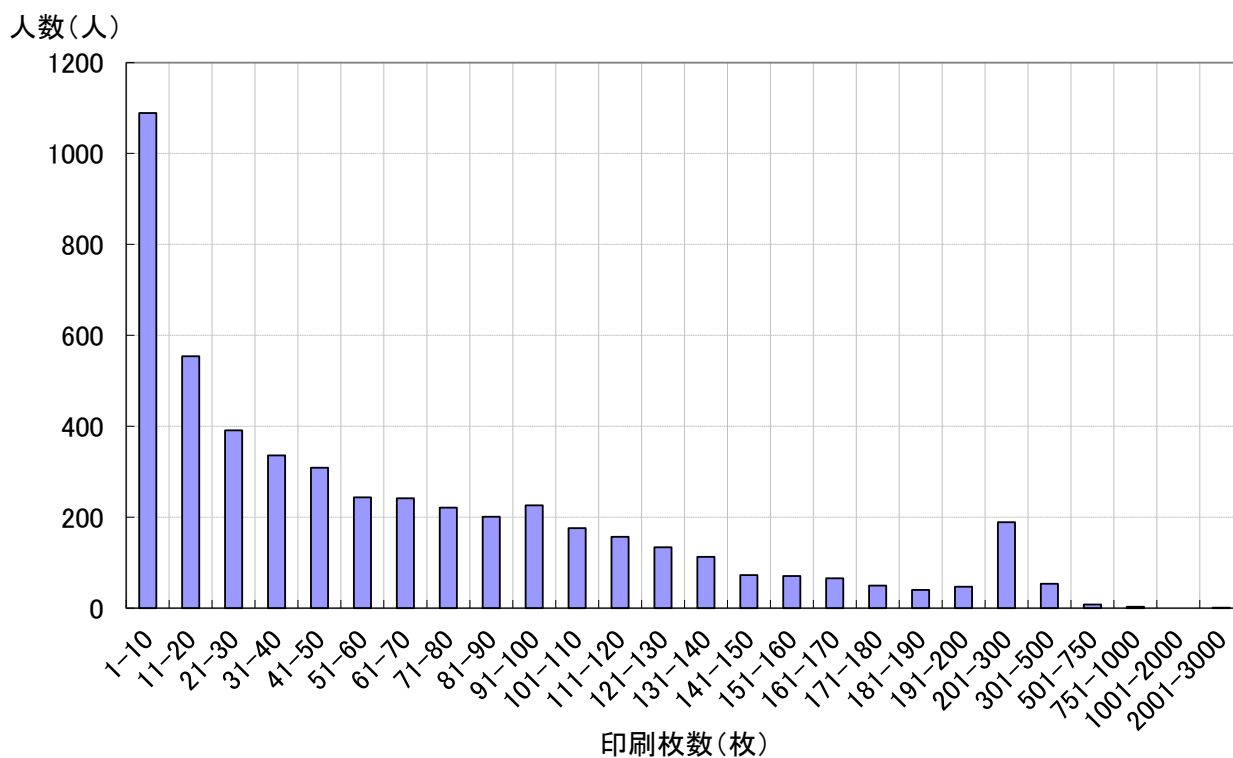
(e)印刷枚数・教室別割合

総印刷枚数の教室別割合を示しています。



(f)印刷枚数に関する利用者数分布

どれくらいの枚数を印刷した利用者数が多いかを示しています。



1.4 統計情報より

昨年度末にシステムリプレイスを行いパソコンの性能が大幅に上がり、学生の利用率は上がるかと思いましたが、昨年度と比較すると、総情センターの利用は全体的にやや減っています。これは、図書館でも同様のパソコンがあり、同じサービスを利用できるために学生が図書館に流れたためと思われます。

その中で第4教室だけ利用が増加したのは、パソコン台数が増えたことありますが、パーティションで教室を分割し、授業中でも自由利用できる端末を確保できるようにした事と、昨年度に行われた渡り廊下の改修の効果があるのではないかと思います。改修され、使いやすくなったことが広がれば、第4教室の利用率は本年度以降も増えていくかもしれません。

図書館1Fの平均端末利用時間の短さが1点気になりました。他の平均端末利用時間が1時間を超えているのに対し、図書館1Fだけは39分と、とても利用時間が短いです。

現在は全ての箇所において、利用が終わると電源を切るような運用をしていますが、利用者も多く回転率も高い図書館1Fだけは、ログオンログオフを行って、起動時間で発生する待ち時間を少なくする等、運用方法を検討する必要があるかもしれません。

三重大学総合情報処理センター運営委員会委員

平成 21 年 4 月 1 日現在

所属学部名等	職 名	氏 名	備 考
理 事	理 事 副学長	松岡 守	情報・国際交流 担当
	理 事 事務局長	坂口 力	総務・財務担当
総合情報処理 センター	教 授	木村 文隆	センター長
	准教授	杉浦 徳宏	
	助 教	堀川 慎一	
	助 教	三橋 一郎	
人文学部	准教授	小山 憲司	
教育学部	教 授	丁 亜希	
医学研究科	講 師	高田 孝広	
工学研究科	教 授	吉岡 泰規	
生物資源学研究科	准教授	末原 憲一郎	
地域イノベーション学研究科	教 授	奥村 晴彦	
共通教育センター	教 授	取手 伸夫	

三重大学情報ネットワーク専門委員会委員

平成 21 年 4 月 1 日現在

所属学部名等	職 名	氏 名	備 考
学長補佐	学長補佐	奥村 晴彦	情報担当
総合情報処理センター	教 授	木村 文隆	センター長
	准教授	杉浦 徳宏	
	助 教	堀川 慎一	
	助 教	三橋 一郎	
人文学部	准教授	小山 憲司	
	准教授	森 久綱	
教育学部	教 授	丁 亜希	
医学系研究科	教 授	中野 正孝	
附属病院	講 師	高田 孝広	
	助 教	磯田 憲一	
工学研究科	助 教	内藤 克浩	
生物資源学研究科	准教授	中西 健一	
	助 教	伊藤 良栄	
社会連携研究センター	助 教	加藤 貴也	
共通教育センター	教 授	佐野 和博	
生命科学支援センター	教 授	小林 一成	
国際交流センター	准教授	福岡 昌子	
保健管理センター	教 授	岡野 禎治	
学術情報部	部 長	酒井 和博	
	リーダー	高倉 良介	情報基盤

○三重大学学術情報ポータルセンター規程

改正

平成19年3月15日規程

(設置)

第1条 三重大学に、三重大学学術情報ポータルセンター(以下「ポータルセンター」という。)を置く。

(目的)

第2条 ポータルセンターは、三重大学の教育・研究活動を支援する情報関連の施設・設備を整備し、もって本学の教育研究及び地域活動に貢献することを目的とする。

(業務)

第3条 ポータルセンターは、前条の目的を達成するために次の各号の業務を行う。

- (1) 教育・研究に必要で適切な図書館資料と図書館施設の提供
- (2) 教育・研究に必要なネットワーク整備
- (3) 各種メディア対応施設(メディアホール等)の提供
- (4) ネットワークを活用した教育システム(TOEIC, e-Learning, 遠隔地教育, 電子シラバス等)の提供支援及び研究
- (5) 研究成果の情報発信及び学術機関リポジトリの基盤整備
- (6) 産学官の協働事業
- (7) ネットワーク情報基盤に関する研究
- (8) 電子図書情報に関する研究
- (9) その他ポータルセンターの目的達成のために必要な業務

(組織)

第4条 前条の業務を実施するため、ポータルセンターに次の各号の施設を置く。

- (1) 附属図書館
- (2) 総合情報処理センター

(センター長)

第5条 ポータルセンターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、ポータルセンターを代表し、その業務を総括する。
- 3 センター長は、情報・国際交流担当理事をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 ポータルセンターの運営に関する事項を審議するため、三重大学学術情報ポータルセンター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 ポータルセンターに関する事務は、学術情報部情報図書館チーム及び情報基盤チームにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年5月25日から施行する。

附 則 (平成19年3月15日規程)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

○三重大学学術情報ポータルセンター運営委員会規程

改正

平成20年4月1日規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重大学学術情報ポータルセンター規程第6条第2項の規定に基づき、三重大学学術情報ポータルセンター運営委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学術情報ポータルセンター(以下「ポータルセンター」という。)の運営に関する基本事項
- (2) ポータルセンターの事業計画に関する事項
- (3) その他ポータルセンターの運営に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) ポータルセンター長
- (2) 総合情報処理センター長
- (3) 各学部又は研究科及び共通教育センターから推薦された附属図書館運営委員会委員 各1名
- (4) 総合情報処理センターから推薦された大学教員 1名
- (5) 附属図書館から推薦された大学教員 1名
- (6) 学術情報部長
- (7) その他委員会が必要と認めた者

2 前項第4号,第5号及び第7号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、同項第4号及び第5号の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、ポータルセンター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、学術情報部情報図書館チーム及び情報基盤チームにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年4月1日規程)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

○三重大学総合情報処理センター規程

改正

平成17年5月26日規程

平成18年5月18日規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人三重大学学則第8条第2項の規定に基づき、三重大学総合情報処理センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、本学における情報処理システム及び情報ネットワークシステムを一元的、安全かつ効率的に運用し、研究及び教育に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学術研究のための情報システムに関すること。
- (2) 学術情報の処理及び提供に関すること。
- (3) 情報教育及び情報ネットワークに関すること。
- (4) その他情報技術に関すること。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 大学教員及びその他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

(センター長及び大学教員の選考)

第6条 センター長及び大学教員の選考については、別に定める。

(兼務の大学教員)

第7条 センターに、兼務の大学教員を置き、センター長が選考し、学長が任命する。

2 兼務の大学教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の兼務の大学教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第8条 センターの運営に関する事項を審議するため、三重大学総合情報処理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第9条 センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターに関する事務は、学術情報部情報基盤チームにおいて処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年5月26日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則 (平成17年5月26日規程)

この規程は、平成17年5月26日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則 (平成18年5月18日規程)

この規程は、平成18年5月18日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

○三重大学総合情報処理センター運営委員会規程

改正

平成17年5月26日規程

平成18年2月23日規程

平成18年5月18日規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重大学総合情報処理センター規程第8条第2項の規定に基づき、三重大学総合情報処理センター運営委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 総合情報処理センター(以下「センター」という。)の運営に関する基本事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) その他センターの運営に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 情報・国際交流担当理事
- (2) センター長
- (3) 各学部又は研究科から推薦された大学教員 各1名
- (4) センターの大学教員
- (5) 共通教育センターから推薦された大学教員 1名
- (6) 事務局長

2 前項第3号及び第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学術情報部情報基盤チームにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年5月26日から施行し、平成16年4月1日から適用する。
- 2 この規程の施行の際現に廃止前の三重大学総合情報処理センター運営委員会規程(平成15年4月1日制定)第3号第1項第3号及び第4号の委員である者は、この規程の第3条第1項第3号及び第5号の委員とみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則 (平成17年5月26日規程)

- 1 この規程は、平成17年5月26日から施行し、平成17年4月1日から適用する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第3号の医学部の委員である者は、この規程の第3条第1項第4号の委員とみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則 (平成18年2月23日規程)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年5月18日規程)

- 1 この規程は、平成18年5月18日から施行し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第3号及び第4号の委員である者は、この規程の第3条第1項第3号の委員とみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

○三重大学情報ネットワーク専門委員会規程

改正

平成17年9月27日規程

平成18年5月18日規程

(設置)

第1条 三重大学(以下「本学」という。)に、三重大学情報ネットワーク専門委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(業務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) 情報ネットワークの運営に関する事項
- (2) 学外ネットワークとの連絡調整に関する事項
- (3) その他情報ネットワークに関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 情報・国際交流担当理事
- (2) 総合情報処理センター長
- (3) 各学部又は研究科から推薦された大学教員 各2名
- (4) 医学部附属病院から推薦された大学教員 2名
- (5) 各学内共同教育研究施設から推薦された大学教員 各1名
- (6) 共通教育センターから推薦された大学教員 1名
- (7) 学術情報部長
- (8) 学術情報部情報基盤チームリーダー
- (9) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号から第6号まで及び第9号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、情報・国際交流担当理事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

(部会)

第7条 委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学術情報部情報基盤チームにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年5月26日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則 (平成17年9月27日規程)

- 1 この規程は、平成17年9月27日から施行し、平成17年4月1日から適用する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第3号の医学部の委員である者は、この規程の第3条第1項第4号の委員とみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

附 則 (平成18年5月18日規程)

- 1 この規程は、平成18年5月18日から施行し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第3号及び第4号の委員である者は、この規程の第3条第1項第3号の委員とみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。

○三重大学総合情報処理センター利用規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重大学総合情報処理センター規程第8条の規定に基づき、三重大学総合情報処理センター(以下「センター」という。)の利用に関し必要な事項を定める。

(利用の条件)

第2条 センターは、情報処理及び情報ネットワークに関する学術研究及び教育並びに大学運営上必要な業務を行う場合に利用できるものとする。

(利用者の資格)

第3条 センターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学生
- (3) その他センター長が適当と認めた者

(利用の申請)

第4条 センターを利用(情報処理教育を除く。)しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出するものとする。

2 情報処理教育のためにセンターを利用しようとする場合は、別に定める。

(利用の承認)

第5条 センター長は、前条の申請が適当であると認めたときは、これを承認し、申請者に利用番号を付して、通知するものとする。

2 前項の承認の有効期限は、当該年度限りとする。

(申請事項の変更)

第6条 前条の承認を得た者(以下「利用者」という。)は、利用申請書の記載事項に変更が生じた場合には、速やかにセンター長に届け出なければならない。

(利用番号の転用の禁止)

第7条 利用者は、その利用番号を他の目的に使用し、又は第三者に使用させてはならない。

(利用の方法)

第8条 センターの機器の使用は、利用者自身が行うものとする。

2 センターの機器等の使用に際して必要な事項は、別に定める。

(報告等)

第9条 センター長は、必要に応じて利用者に対し、センター利用の経過及び結果について報告を求めることができる。

2 利用者は、研究等の成果を論文等によって公表するときは、その論文等にセンターを利用した旨を明示するものとする。

(利用承認の取消し等)

第10条 センター長は、利用者が、この規程若しくはこの規程に基づく定めに違反し、又はセンターの運営に支障をきたしたとき若しくはそのおそれがあると認められたときは、その利用承認を取消し、又はその利用を停止させることができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、運営委員会の議を経てセンター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年7月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

三重大学総合情報処理センター利用細則

(趣旨)

第1条 この細則は、三重大学総合情報処理センター利用規程第11条の規定に基づき、三重大学総合情報処理センター（以下「センター」という。）の一般的な利用に関し必要な事項を定める。

(利用の申請)

第2条 利用の申請に際しては、所定の利用申請書に必要事項を記入するとともに、次のうち一つ以上を呈示しなければならない。

- 一 学生の場合、学生証、職員の場合、本学発行の身分証明書
- 二 前号に合致するものを呈示できない場合、本学にて教育を受けていることを証明するもの。
- 三 第1号又は第2号に合致するものを呈示できない場合、指導大学教員の承認を示すもの。

2 センター長が別に定めるシステム及びサービスの利用については、年度当初における本学在籍データの確認をもって利用申請がなされたとみなすことができる。

(利用の承認)

第3条 センター長は、利用の申請を承認した場合は、利用番号及び初期パスワードを申請者に通知するものとする。

(パスワードの管理)

第4条 利用者は、パスワードについて他者に知られてはならない。

2 利用者は、通知された初期パスワードを変更することができる。ただし、変更によるトラブルは本人の責とし、変更したパスワードの問合せにはセンターは応じない。

(利用時間)

第5条 センターの利用時間は、月曜日から金曜日まで(国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に定める休日及び年末年始（十二月二十九日から翌年一月三日まで）を除く。）の8時40分から20時50分までとする。ただし、センター長が業務運営上必要と認めるときは、センターの利用の全部又は一部を休止し、又は延長する。

(機器の利用)

第6条 センターの機器の利用は、原則として受付順によるものとする。ただし、別に定める一部の特殊機器については予約制により行うものとする。

2 センターの機器の利用に際しての詳細は、マニュアル及び利用の手引きその他説明書に基づくものとし、利用者に配布されるものを除きセンター長の許可なくセンターから持ち出してはならない。

3 消耗品類の利用については、一定の制限を設けることがある。

4 その他センターの利用に際しては、センターで定める利用の手引き等を遵守しなければならない。

(ライセンスによる利用制限)

第7条 センターの機器の利用については、システム及びサービスの利用許可とは別に、機器に定めるライセンス上の使用許諾の制限を受ける。

(セキュリティポリシーの厳守)

第8条 センターの利用に際しては、三重大学情報セキュリティポリシー及び情報セキュリティポリシー実施手順書を厳守しなければならない。

(利用の停止及び処分)

第9条 利用者が、この細則若しくはこの細則に基づく定めに違反し、又はセンターの運営に重大な支障をもたらした場合には、センター長は、利用の承認を取消し、又は一定期間センターの利用を停止させることができる。また、特に悪質とセンター長が認めた場合には、利用者の身分に関する処分について、その権限を有する意思決定機構（教授会等）に対し、当該行為の報告及び処分の勧告を行う。

(利用の相談)

第10条 センター利用に係る相談に対処するため、センターにセンター利用相談室（事務室）を置く。

(雑則)

第11条 この細則に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

三重大学総合情報処理センター情報処理教育システム利用細則

(趣旨)

第1条 この細則は、三重大学総合情報処理センター利用規程第4条第2項の規定に基づき、三重大学総合情報処理センター（以下「センター」という。）の情報処理教育システムの利用に関し必要な事項を定める。

(優先利用の範囲)

第2条 情報処理教育システム端末室（以下「教育端末室」という。）を占有若しくは優先的に使用することができる場合は、次のとおりとする。

- 一 授業科目の授業に利用する場合
- 二 その他特にセンター長が必要と認めたものに利用する場合

2 前項第2号の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(一般利用の範囲)

第3条 前条に合致しない一般的な利用については、前条の利用に影響しない範囲内において許可する。利用者は、三重大学総合情報処理センター利用細則に従う。

(利用の申請)

第4条 第2条の規定による利用を行う場合、担当大学教員は授業科目ごとに所定の総合情報処理センター教育システム利用申請書をセンター長に所定の期日までに提出しなければならない。

(利用の承認)

第5条 センター長は前条の申請を承認したときは、利用番号及びパスワードを付して、担当大学教員に通知する。

2 前項の承認の有効期限は、授業終了までとする。

(申請事項の変更)

第6条 前条の規定により承認された担当大学教員は、申請書の記載事項に変更が生じた場合には、速やかにセンター長に届け出なければならない。

(利用番号の転用の禁止)

第7条 担当大学教員及び利用を承認された学生（以下「受講生」という。）は、その利用番号を他の目的に使用し、又は第三者に使用させてはならない。

(パスワードの管理)

第8条 担当大学教員及び受講生は、パスワードについて他者に知られてはならない。

2 担当大学教員は、通知されたパスワードを変更することができる。

(指導責任)

第9条 利用に関する受講生の指導責任は、担当大学教員が負う。

2 担当大学教員は、前条に定める受講生のパスワードの管理を行い、受講生からの問合せ等に応じる責を負う。

(利用の方法)

第10条 機器の利用は、担当大学教員の指導のもとに受講生自身が行うものとする。

2 機器の利用に際しての詳細は、マニュアル及び利用の手引きその他説明書に基づくものとし、利用者に配布されるものを除きセンター長の許可なくセンターから持ち出してはならない。

3 その他センターの利用に際しては、センターで定める利用の手引き等を遵守しなければならない。

(利用場所)

第11条 機器を使用できる場所は、教育端末室においてのみとする。

(利用承認の取消し及び処分)

第12条 担当大学教員又は受講生が、この細則若しくはこの細則に基づく定めに違反し、又はセンターの運営に重大な支障をもたらした場合には、センター長は、利用の承認を取消し、又は一定期間センターの利用を停止させることができる。また、特に悪質とセンター長が認めた場合には、利用者の身分に関する処分について、その権限を有する意思決定機構(教授会等)に対し、当該行為の報告及び処分の勧告を行う。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

三重大学総合情報処理センター広報 Vol. 8
平成 22 年 7 月発行

編集人 三重大学総合情報処理センター
木村文隆、杉浦徳宏、堀川慎一、三橋一郎、伊藤篤、松原伸樹

発行所 三重大学総合情報処理センター
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
TEL (059)231-9645
FAX (059)231-9646